

＜落とし込みダブルギャフ（特許）、キハダ取り込みシステムの取り扱い説明書＞

—型式：WG 6 1 9 0 Y—

製造販売：服部商会

落とし込みダブルギャフとそのシステム及びギャフ掛け方法（取り込み方法＝やり方）は特許、特許全八項目：特許第4988949号及び特許第4988970号、「落とし込みダブルギャフ」は登録商標：登録第5540603号

魚の口元にギャフセットが到達した時点（リーダー上にガイドが乗っている状態）で、ガイド端から針先までの寸法が魚の寸法と略マッチングしている事が高効率なフッキングを実現します。本品は大型回遊魚（キハダ、大カンパチ、GT等）を取り込む為のものですが、これ等の魚は概して頭が大きく、硬く、此の部位にはギャフが掛かり辛い為、此处を避け、鰓より下の胴体部分、腹回りにギャフを掛ける事とし、リーダーにガイドが乗った状態で、針先がこの部分に来るような設定にしてあります。シュリング（赤の補助ロープ）がスペーサの役割を果たしています。本品は1.2m～1.5m程の魚の取り込みに適します。本品と中軸青物用N/Wとは、ギャフ本体は同じであり、違いは此のシュリングの存在です。1m前後以下の魚を狙う場合は、シュリングは必要では無い為、その場合はこれを取り外し、カラビナを直接ギャフリングに掛ければ、実質青物用にバージョンダウンできます。その場合は、ロープもこれほど太い（9mm）ものは必要ないでしょうから、細ロープに付け替えれば良いです。どういう釣りを行うかにより、システムを組み替え、使用するのがベストです。

1) 仕様

型式：WG 6 1 9 0 Y

寸法（設計値）

ギャフ本体：軸径9mm、フック軸径6.4mm、全長19cm、全幅9.6cm、フトコロ7cm、フック幅8.6cm

ギャフ自重：225g

ロープ：径9mm×長さ14m（ナイロン編みロープ）

ガイド：ワイヤー2mm

システム総重量（ギャフ含む）：996g

適用範囲：4kg～28kg（二人だと48kg、耐強度はフッカー一本で60kg）

適用高距：2m（餌釣りは3m）～13m

材質：ステンレス（フック部—高強度鋼・焼き入り）

対象魚：大型回遊魚（キハダマグロ、大カンパチ、GT等）

2) 図面

図1

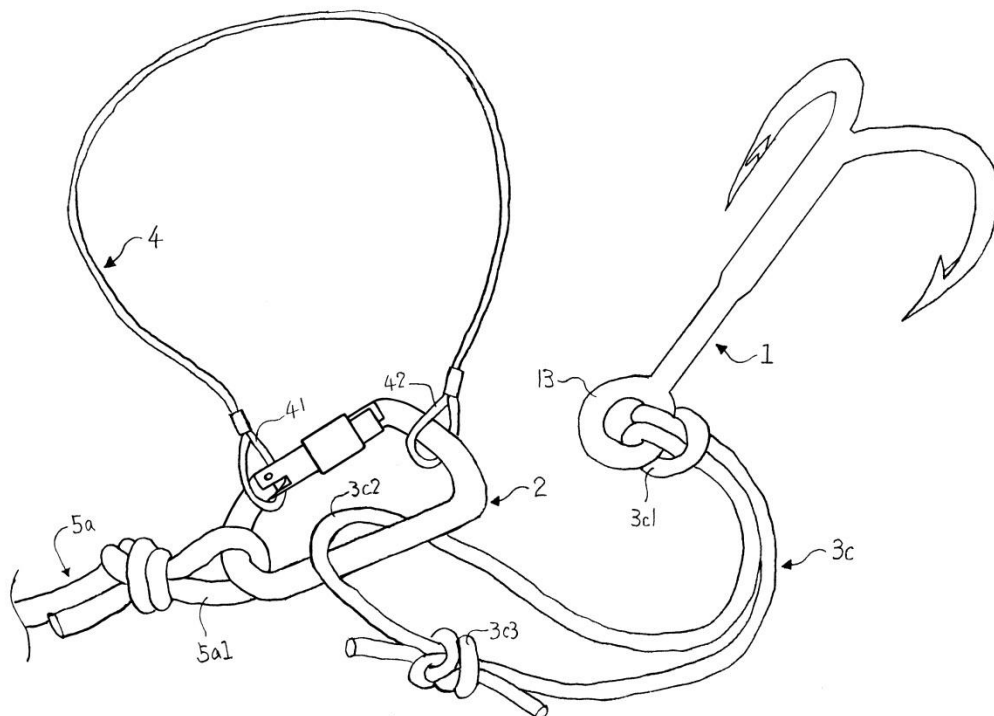


图 2

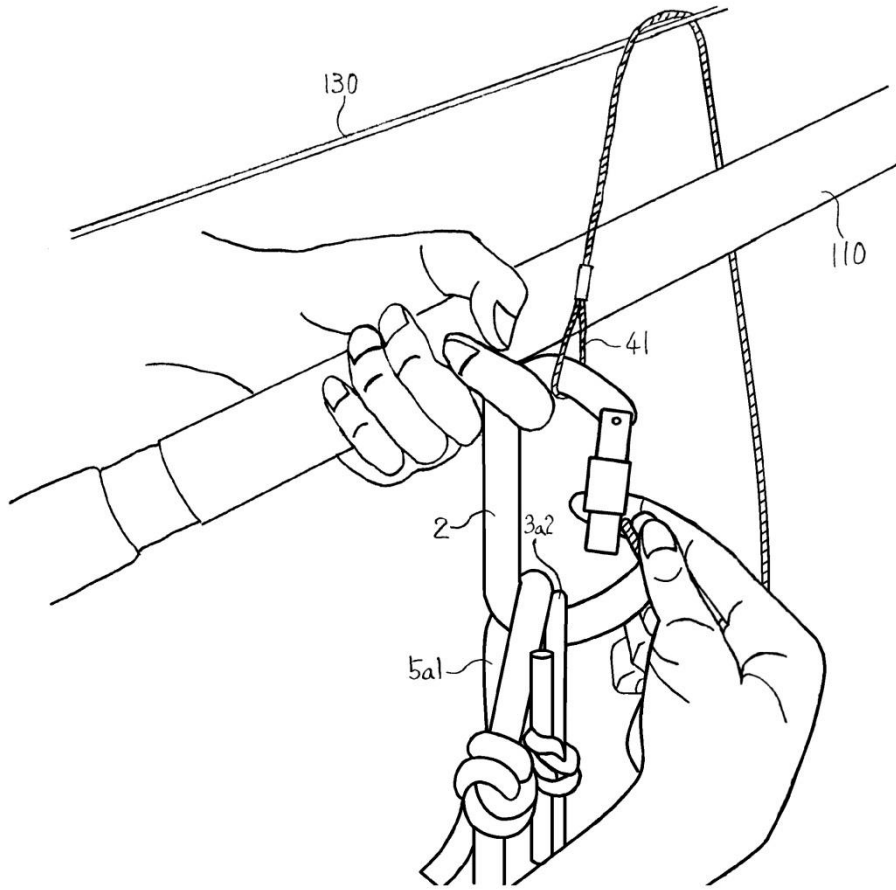


图 3

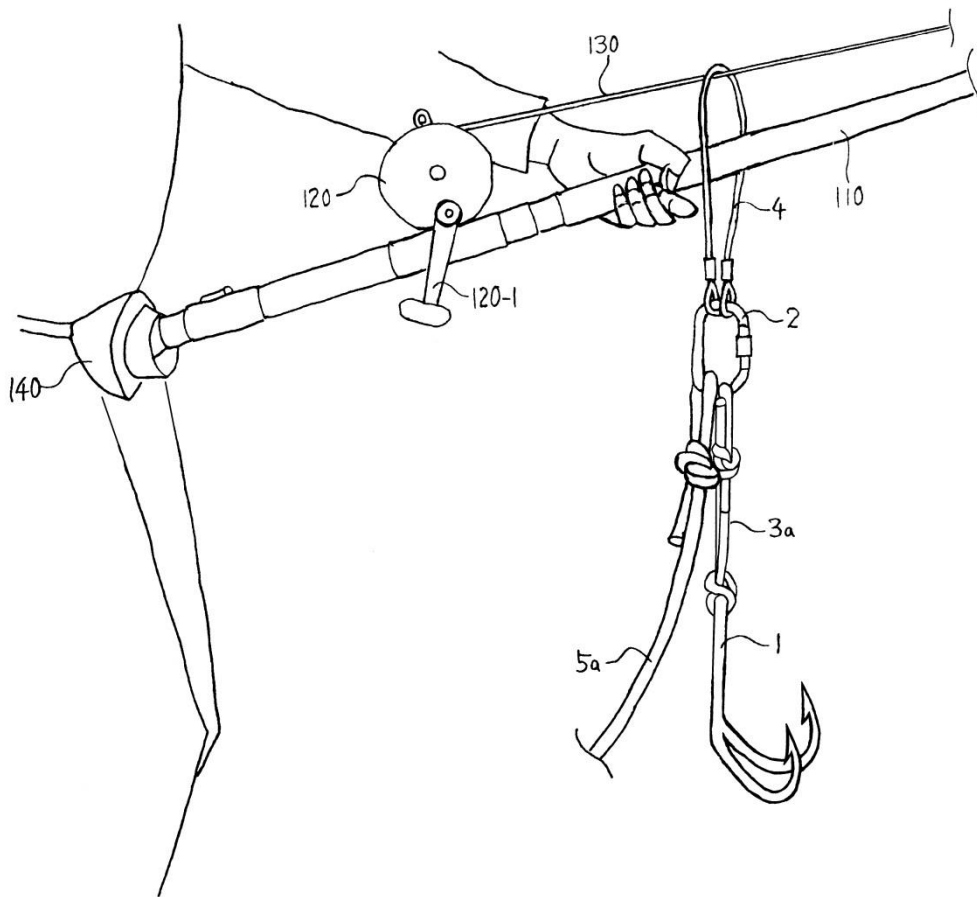


图 4

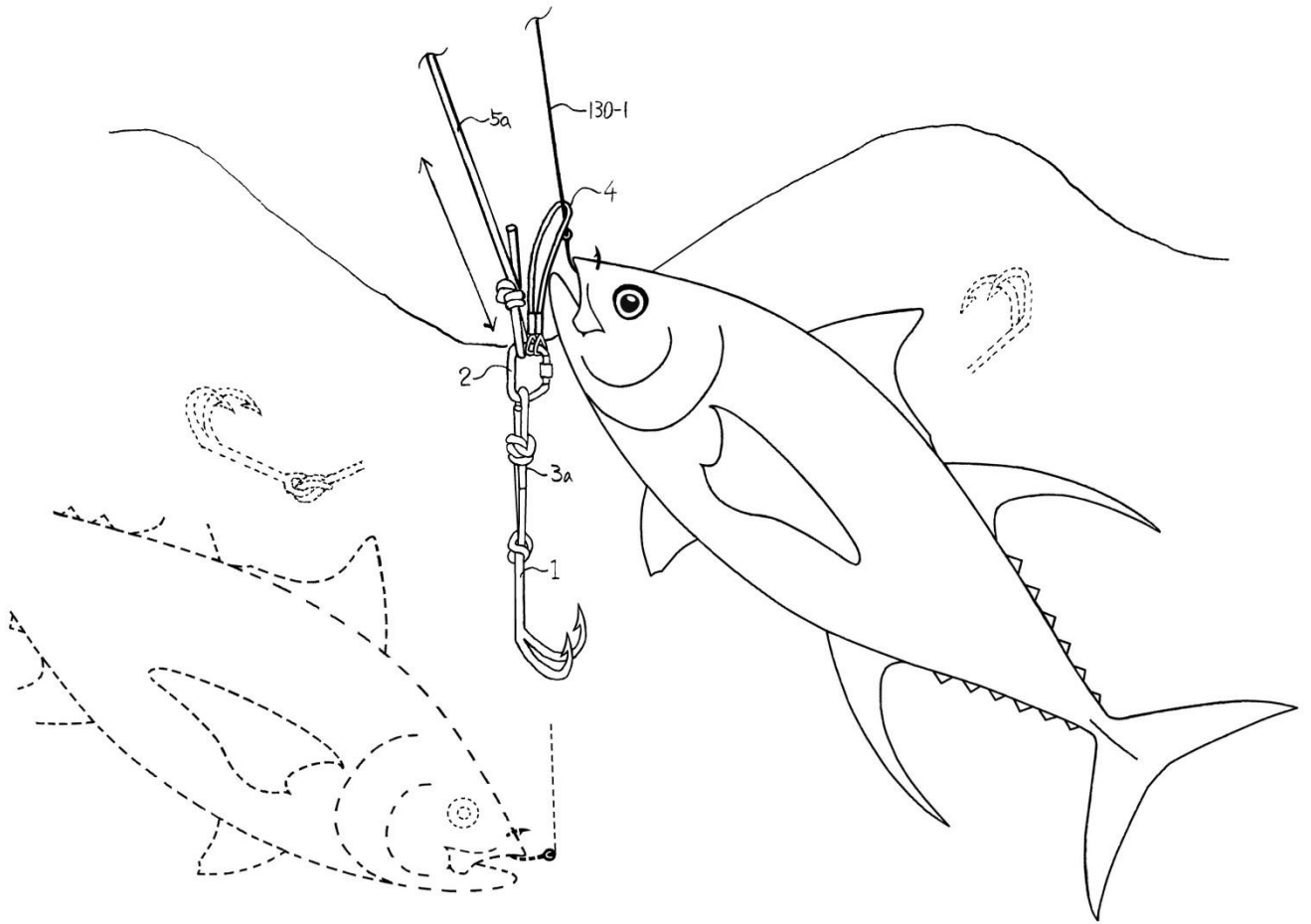
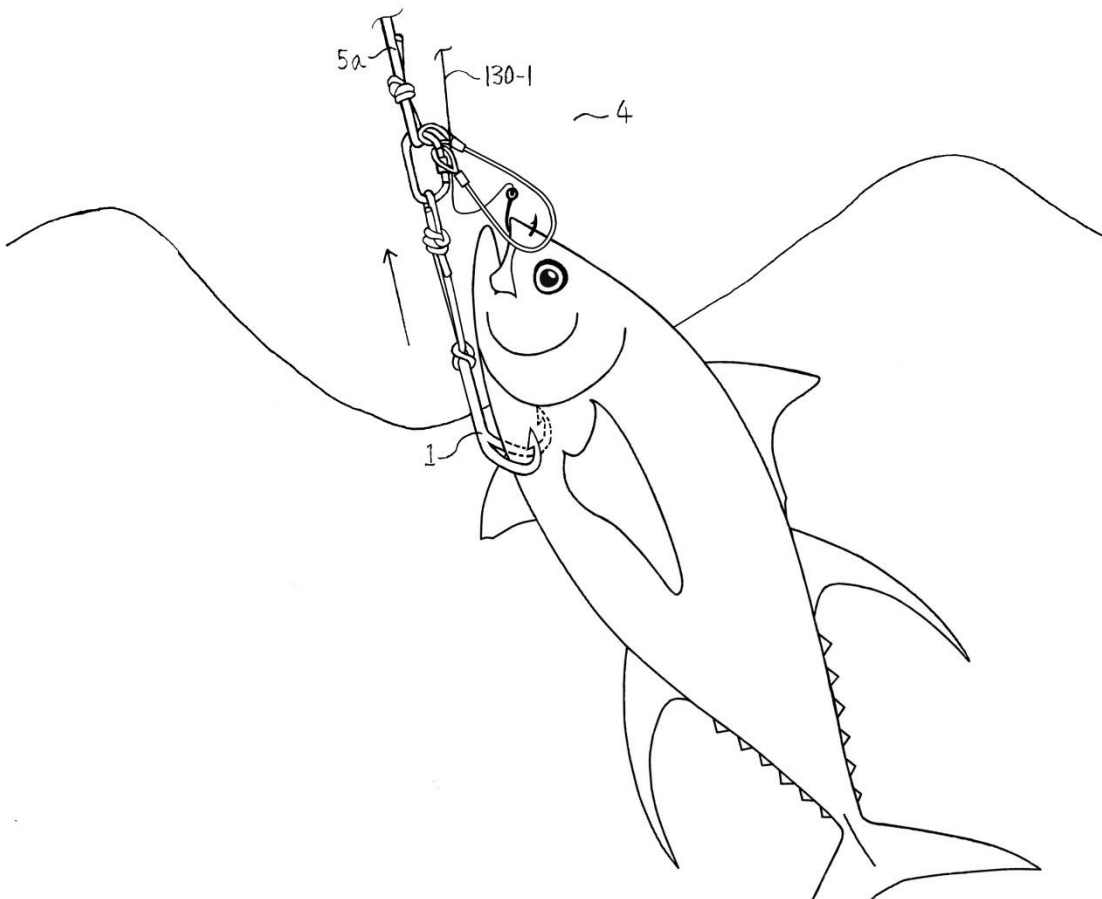


图 5



3) 図面の簡単な説明

図1は本キハダ取り込みシステムの全体図です（ラッピングワイヤー4両端の両ループ4 1、4 2共閉じた状態を示す）。

図2は本キハダ取り込みシステムにおける、ラッピングワイヤー4巻き付けのキーポイントを示した説明図です。

図3は本キハダ取り込みシステムの竿へ巻き付けが完了した状態を示した説明図です。

図4は本キハダ取り込みシステムのギャフ掛けのメカニズムを示した説明図です。

図5は本キハダ取り込みシステムのフッキングのメカニズムを示した説明図です。

4) 序文

本落とし込みダブルギャフは高場からの単独取り込みを高い確実性で可能にするものです。本キハダ取り込みシステムでは、巻き体(ラッピングワイヤー)4の一端4 2を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、道糸1 3 0ごと竿1 1 0に巻いて、カラビナ2に掛けてやり、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方をします(中軸青物取り込みシステムと異なり、ガイド4をループ方式にして、竿尻から竿に通すやり方は本キハダ取り込みシステムでは禁止にします・理由は後述)。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みに於いても、竿を立てた状態を維持したまま(=ラインテンションの喪失無く)ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く(=高いサージテンションの発生無く)、ギャフのフッキングに到達出来る事があります。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式(ガイド道糸取り付け型ギャフ)で、ラインを手で掴めば、5 m有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。これに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま(=魚のコントロールを維持したまま)、ギャフのフッキングに到達できます。

これにより、本落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法(取り込み方法)は特許が認められました(特許全八項目、特許第4 9 8 8 9 4 9号及び特許第4 9 8 8 9 7 0号、及び実用新案一項目、実録第3 1 7 6 6 3 5号)。其の詳細は特許庁ホームページのJ-Plat Patで確認できます(「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第5 5 4 0 6 0 3号)。

5) 基本説明

本品は、大型回遊魚(キハダマグロ、大カンパチ、GT)等を主体として、4 k gから2 8 k gの魚を対象とします(二人いれば4 8 k g可能)。2 8 k g(二人で4 8 k g)という数値は、ギャフ自体1の強度限界を示すものではありません。堤防又は磯表面の摩擦抵抗がこれに加わりますから、此れの何割かアップの数値が実際には手に掛かることとなります。加えて、釣り人はファイトで腕力を消耗しておりますので、上記数値が取り込めるかどうかは、ギャフの問題ではなく、釣り人自身の問題です。ギャフ自体の耐強度はフッカー一本で6 0 k g(設計値)ですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません(参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください)。本品フック部はその素材に高強度鋼を使用しており、一般鋼種(SUS304=18-8ステン)ではありません(市販の殆どのギャフが此れ。SUS304は軟材であり、焼きも入らない)。本品フック部は軸径6.4 mmですが、焼きが入っており、細いにもかかわらず強いです(→軽量高強度=同径標準ギャフの数倍の耐強度)。

従来法では今まで、大物の高場からの取り込みには、フライングギャフ、イカリ型ギャフ(タコ足型一投げ込み方式)、ガイド道糸取り付け型ギャフ、落としダモ、大型長柄タモ等が使われてきました。然しながら、これ等の方法で、5 mを越える高場から5 k gを越える大物を、単独で(自分一人で誰の手助けも無く)、確実性高く取り込む事は、竿が短くて比較的簡単に道糸が掴めるルアーの場合を除いて、事実上不可能でありました(置き竿ファイトの場合、可能性あり)。二人の人間がいればこれらの技術のうちその状況に適したものを使用すれば比較的簡単な事なのですが、仮にたまたま其れが出来たとしても、其れはただ単に幸運だっただけで、まぐれにすぎません。本発明の落とし込みダブルギャフと其のシステムは大物の高場からの単独取り込みを可能にするものです(世界初!特許はその理由により与えられたもの)。本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約4 k gから約2 8 k gまでの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます(二人だと4 8 k g~5 0 k g)。然も高い携行性(持ち運び易さ、収納の容易さ)を有します。本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事、更には魚が大きい事ですら、障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます(通常1 5秒から2 0秒程、長くても一分以内)。本キハダ取り込みシステムは、スタンディングからの取り込み(石鯛竿又はルアーGTロッド)に適しております。此のキハダ用を置き竿ファイト(=磯からのアラ釣り等)に使用する時は、竿受けにアラ竿を置いた状態でラッピングワイヤー4を竿に巻き、竿尻の固定ピンを外して、竿を傾け、ギャフを竿伝いに落とす形になります。

6) 事前準備

出荷時点でロープ5 aの両端に作ったループの片方5 a 1(一端側)をカラビナ2に掛けてあります。輪にしたロープを解いた時点で、キンク(よじれ)が発生している様であれば、キンクを解消しなければなりません。キンクが発生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れ

てしまったら、如何にもならなくなってしまう。纏れはキンクが引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれが存在する事になります。これがキンクを引き起こす要因となります。これを解消するには次の様にします。ロープ端のループ5a1をカラビナ2から一旦外し、両端の結びを解いた上で、ロープ端を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち（手刀側がロープ端）、その横で親指同志がくっ付く形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大きくスライドさせます。次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を右に一杯までスライドさせ、これを端までやります。右手をスライドさせる時に右手首を向こう側に少し捻りながらやると尚良いです。今度は反対側の端から同じ事をやります。これを2～3回やります。これでキンク（よじれ、ストレス）は完全に取れます。この作業を、「ロープを扱（しご）く」と言います。このロープ扱きは本ギャフ使用前に必ずやらなければならない必須事項です。

両端に再びループを作り、その片方5a1（一端側）をカラビナ2に掛け、安全環をロックします。此の時、巻き体（ラッピングワイヤー）4の一端41をカラビナ2のゲートの固定側（反開口側＝安全環の上手側）に位置させ、且つ他端42はカラビナ2から外します。最後に他端側（ギャフ1とは反対の側）から、ロープ5aを輪に巻き、他端側（ギャフとは反対側）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に、カラビナ2が指で掬い取りやすい状態で、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します。若しくは、ロープがギャフ側から順次引きだされるように、ジグザグに配置してもOKです（HPシラビデオ参照）。

これで準備は完了です。この作業は慣れれば1～2分で出来る筈です。要するにロープギャフの事前準備とはバッグから出して輪を解いておけばよいという事ではありません。又、此の時、下側に位置している他端側（ギャフとは反対側）のループが横に出ている状態にしておくことが次の動作に都合がよいです（半とぐる状態の蛇の尻尾が横に出ている状態）。

7) 使用方法（特許）

上記事前準備に於いて、巻き体（ラッピングワイヤー）4の両端のループ41、42の片方42をカラビナ2から外すことにより、カラビナ2にはギャフ1のシュリング3cを真ん中にして、手前側（シュリング3cの背側）にロープ5aのループ5a1、先側（シュリング3cの前側）に線状となった巻き体（ラッピングワイヤー）4の一端のループ41がゲートの固定ピン側（安全環の反開口側＝上側）に位置しています。巻き体（ラッピングワイヤー）4の他端42はカラビナ2の外に出てフリーです（言葉では分かりにくいので、HPビデオ大物用参照、同じ）。此処までが事前準備で、釣り開始前に完了しておく必要があります。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本姿勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2に掛け、取る。

②次に、竿110を持っている左手の人差し指を開き、右手指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す。この時、カラビナ2は長軸の、ゲートの固定ピンに近い方（反開口側）の湾曲部を左手人差し指で握る。各部材は重みがあるので、カラビナ2の反対側（開口部に近い方）の湾曲部に寄り、同湾曲部は下を向き、カラビナ2の安全環は前側に位置している。

③左手人差し指も合わせて竿110を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿110を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿110を握る事になる。

④次に、右手で、反対側42がフリーになってぶら下がっている巻き体（ラッピングワイヤー）4を掴み、竿110及び道糸130を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、ワイヤー4は重みがあり、適度に柔らかいから、フリーの側42が竿110の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿110の下側から伸ばし、フリーになっている他端側ループ42を掴む。

⑦摘んだループ42をカラビナ2の開口部に押し当てやると、ワイヤー4は適度の硬さがあるので、開口部がバネに抗して、開き、パチリと言う音と共に、ループ42がカラビナ2内部に嵌まり込む（図2参照）。

⑧右手でカラビナ2の安全環を回し、開口部をロックする。これで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿110への取り付けは完了した（図3参照）。

⑨次に竿110を傾けて落す訳であるが、大物用には両軸リールが使われる事が多く（スピニングリールの場合、GTロッドの場合はそのまま落とせばよいので、これは中軸青物用又は青物用の項で詳述しているのでそちらを参照）、両軸リールは竿110の上側に付いており、竿110上にはラインガイドが、立っている訳で、これが落す際の障害になるので、まず、竿110を180度回転させ、リールを下側に向ける。

⑩石鯛竿又はクエ竿は、ラバークリップが長めに巻かれていて、これはラッピングワイヤー4の滑りが悪いから、その先まで、手でラッピングワイヤー4をスライドさせなければならない。リールを下に向けたことにより、ハンドル120-1は左側に来ているから、右手でカラビナ2から出たロープ5aを掴み、右手の人差し指にロープ5aを掛けた状態で、右手で竿110を握る。即ち、右手の人差し指以外の指は直接竿110を握り、人差し指はロープ5aを間に挟んだ状態で竿110を握る事になる。其の状態で、左手でラッピングワイヤー4を掴み、ラバークリップの先まで、前進させる。次に、足元に於かれたトグロ状態のロープ5aの末端のループを左手で掴み、これを、竿110を持った右手の小指に受け渡す（即ち、此の時、竿110を持った右手は、人差し指でカラビナ2から出たロープ5aを抑え、小指にはロープ末端のループを掛けている）。

⑪次に、リールを巻きながら、竿先を倒さなければならない。右手人差し指のロープを離すと同時に、左手でリールを

巻きながら、竿先をさげる（巻き方向が通常と逆になるので要注意）。ラッピングワイヤー4が竿先を通過したら、再び竿を立てる。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。リールを巻きながら竿先を下げるから、ラインテンションの喪失は起こらない。

⑫落とし込むと、ギャフセットは口元に到達する。ギャフが落ちたら、ギャフ掛けの操作は右利きの人であれば、右手でやった方が上手くいくので、左手で竿110を掴み、右手小指に掛けた、ロープ5a末端のループを、左手の小指に受け渡した上で、再び竿を180°回転させ、リールを上に向ける。

⑬ロープを右手で持って、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをする要領で、手先を上下させてやると（図4の状態）、程無くズシリと重みが掛かる（魚を見て操作する必要は無い）。

⑭これはフッキングした証拠だから、そしたら、一杯ロープを引っ張り上げてやると、ガシリとギャフが食い込む（図5の状態）。これで、カエシが効いているので、ギャフ1が外れる事はないから、右手のロープを緩めて、その手でリールのドラッグを緩め、竿を置いて、両手で引上げを開始する。尚、ロープ他端のループを小指に挿す上記法の他に、これを足元のクーラー等の荷物（又はハーケン+シュリング+カラビナ）に固定しておき、ロープを手の中を滑らせ、落す簡易法も、慣れれば便利である（→HPシイラビデオ参照）。

***）注意（重要、必読）：**上記使用方法で述べた、巻き付け方式が本キハダ取り込みシステムに於いて、原則となりませぬ。中軸青物用又は青物用で標準とした、ループ竿尻通し方式（ガイド4の両端41、42共カラビナ2に入れてループ体を完成させ、---図1がその状態を示しています---、このループ体に右手首を通して、竿尻を掴む事によってこれを竿に通し、リールを越えてその前に出すやり方）は、本キハダ取り込みシステムでは禁止します（厳禁）。その理由は以下の通りです。ガイド端からフック迄の寸法が予想される魚の全長の一定範囲になっている事が高効率なフッキングを実現します（硬い頭の周辺を避け、其の下位置にフッキング出来る様になっています）。此の為、青物用は主として、1m前後以下の魚を取り込む様に作られているのに対して、キハダ用は主として、1m以上（1.2m~1.5m）の魚を取り込む様に作られております。ループ方式を基本とした、中軸青物用/青物用は竿尻を掴む時点に於いて、フック位置が膝頭より下には行きません。これに対して、本キハダ用をループ方式で使った場合に於いては、竿尻掴みの時点に於いて、フック位置が脛の位置まで来ます。次項（使用上の注意、A）で述べております通り、本システムは、ギャフ掛けのムーブに入る前に、ドラッグを少し緩めて、バランスを崩す事が無い様にした上で、同ムーブに入る様明記しております。然し、大物が初めてのビギナーが、頭の中がパニックだった状態で、此の注意書きを守らず、ドラッグを閉めこんだまま取り込みのムーブに入り、ループ方式で本キハダ用を手首に掛け、竿尻を握ったその時点で、魚が暴れ、突っ込み、其れにより、バランスを崩し、足をバタつかせ、其れにより、魚にギャフを掛ける前に、自分のズボンにギャフを引っ掛け、転倒といった事にでもなれば、重大事故になりかねません。竿の軸に対して、体を斜めに位置させ、左足を左側前方、右足を右側後方に大きく両足を開いていれば、上記の様なトラブル発生の危険性は軽減されると思いますが、頭の中がパニックだった釣り人の存在が予測できる以上、完全にはその危険は排除されません。頭の中がパニックってしまった釣り人が何をやらかすか、全く予測が付きません。上記の巻き付け方式（図2で示されたやり方の実行）では、仮にドラッグを緩めなかったとしても（その場合は、魚が突っ込めばのされて失敗するだけ）、危険な事は何も起こりえませんが、簡単です。安全環付カラビナは釣り人には馴染みが無い物ですが、クライミング用品で、片手で操作できるように作られており、慣れれば大変使いやすい物ですので、慣れて下さい（事前に取り付けの練習）。膝頭より下にフックの針先がいかない中軸青物用/青物用は、どういう使い方しても、危険な事は何も起こりえませんが、ループ方式で構わないのです。以上の様な訳で、本キハダ取り込みシステムに、ループ竿尻通し方式を実行する事は禁止（絶対禁止）とします。

8) 使用上の注意

A) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。

B) ロープの他端側（ギャフとは反対側）をボディ（体）の何処かに固定する事は、危険ですから、絶対にしてははいけません（魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります）。小指にループを掛けるやり方の他に、他端側のループにカラビナを掛け、石鯛竿の場合ですと、尻手環にこのカラビナを掛ける事もできます。

C) 中通し浮きにケミホタルを立てる事はできません。ケミホタルを使用する場合、ケミの長さより少し長めのチューブ（無ければストローの硬いのも可）の周りにケミをセロテープで巻き付けて使用する事も一つの方法です。この場合、上から、浮き止め、ビーズ、ケミを巻き付けたチューブ、ビーズ、浮きとなります。ケミとチューブの間に隙間ができないように、ケミの両側でセロテープが台形状になるように巻いてください。浮きの後ろに隠れて一時的に光が見えなくなる事はありますが、魚の引き込みと一時的な光の喪失との区別は、明確でありますので、実釣に於いて、何も支障はありません。

D) 夜釣りで竿先にケミホタルを取り付ける場合も、ケミの両サイドに隙間が出来ない様に（隙間にラッピングワイヤー4が嵌まり込む事が無い様に）、セロテープがケミの両サイドで台形状になるように、竿先に巻きつけてください。

E) 仕掛け周辺をラッピングワイヤー4がスムーズに通過出来る事を事前に確認して下さい。スムーズにいかない場合は、何か「角」が存在している筈ですから、その「角」を解消して下さい。

9) 保守管理

本品はステンレスですが、使用后放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainlessとは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品は高強度鋼を使用しておりますが、本品鋼種は、一般的な鋼種（SUS304、等）に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油を吹き付けた後、其れを乾い

た別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油（刀剣用防錆油がベスト）を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまつてはフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ぜられている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。本ギャフはフックの針先を内側に少し曲げています。本ギャフでは、そのシステムの威力が絶大である為、針先の張り出しや、フックの本数に頼る必要はありません。フックの針先が少し内側に向いている為（其れでもちゃんと掛かります）、魚引き上げ時には、リング13が起き（堤防又は磯表面から離れ）、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、表面から少し浮く（離れる）形となります。これにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。これは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。磯での使用も可能となりました。本ギャフは、掛けるのはシステムの方で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払ってください。

10) システム仕様

システム	ロープ	高距 (m)	取り込み限界（概略、kg）		要件
			一人の場合	二人の場合	
中軸—青物取り込みシステム	6φ—1.3m	1.2	20	32	無し
青物取り込みシステム	6φ—1.5m	1.4	20	32	無し
キハダ取り込みシステム（本品）	9φ—1.4m	1.3	28	48	無し
大物取り込みシステム	10φ—1.5m	1.4	28	50	無し
巨魚取り込みシステム	9φ—3.0m	1.4	40	70	足場回りでの支点

（中軸—青物用とキハダ用は同じギャフを使用し、青物用と大物用と巨魚用は同じギャフを使用、巨魚用は滑車を組み付けて半分力で上げられるようにした物→ロープダブル）

製造販売、服部商会

〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406

TEL, FAX : 096-365-0269

E-Mail :